

# 二〇二二年 秋号

## 海禅寺新聞



Vol.35

### 『海禅寺新聞』第35号

新型コロナウイルス感染症に感染してしまいました。副住職です。体調不良の症状があつたため検査をした結果、「陽性」となりました。幸いにも数日の発熱と咳のみの症状で、指定の自宅療養期間を経て完全に回復し、有り難いことに今は通常通り園勤務と寺の勤めをしております。

ただし今回体調が悪くなり「陽性」反応が出た時期が、ちょうどお盆の前でした。その結果、海禅寺のお施餓鬼行事にも出られず、私がお伺いする予定をしていた新盆のお参りはすべて住職にお任せするという事態になってしまいました。お施餓鬼は海禅寺の年間行事の中で最も大切な法要の一つです。寺の一室で隔離療養生活しながら、本堂から聞こえてくる御寺院さん方の読経や皆様の気配を感じるのには忸怩たる思いがいたしました。新盆のお宅には、あらかじめお電話等で様々にお約束のやりとりをしておりました。そうした中で急な予定変更をお願いし、皆様には改めて心よりお詫び申し上げます。

多くの方に迷惑をおかけしてしまいました。ご心配いただくお声も多数頂戴いたしました。ありがとうございます。ここに感謝と共に回復のご報告をさせていただきます。

合掌



### 『生きる力 vol.110』送付

「生きる力 vol.110」をお届けします。毎回巻頭に掲載されている「智山寺院探訪」。私たち真言宗智山派の有名寺院が紹介されています。今回は、東京台東区にある西蔵院さんです。海禅寺とも縁が深い御寺院で、ご住職は11月にお勤めしている人形供養会に、毎年遠方からお手伝いにおいでいただいています。西蔵院の先代御住職と海禅寺住職とが学生時代からの付き合いがあり、今日まで寺院同士の親交を深めております。ぜひ一読ください。また20ページには「お墓」と「お塔婆」について掲載されています。どちらも御先祖を思い、手を合わせる際にはかけがえないものです。改めてその意味をご確認ください。

### 秋彼岸会 中日法要のご案内

恒例の秋彼岸会法要を海禅寺本堂にてお勤めいたします。どうぞお出かけください。(申込不要)

日程：令和4年9月23日(金)  
時間：受付 午前10時～

法要 午前10時半～

※お彼岸中日の午前中は、本堂前でお焼香していただけるよう準備をいたします。

※毎回、有意義な懇親の場となっております。要終了後の茶話会ですが、今回も感染症に配慮して中止します。

※彼岸会法要の供養塔婆をご希望の方は、19日(月) 夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

(供養塔婆料 一基 3000円)  
※境内墓地をお持ちの方は、お寺においでならなくとも供養塔婆を墓前に手向

けさせていただけます。ご希望の方は、供養塔婆料を添えてお申し出下さい。

電話：0268-22-2972  
Fax：0268-26-1146

### 永代供養堂 「還源」

げんげん

永代供養堂の完成と利用規約の整備完了については、前号で皆様にお知らせしました通りです。8月には家族墓の墓終いに伴う最初の納骨依頼があり、法要をお勤めいたしました。また檀信徒の皆様からお問い合わせや新たなご依頼をいただいております。このお堂は建物の形状が独特なためか、観光等でお参りになった方も興味をもってくださることが多くあります。そうした際にお堂の役割や寺の思いを理解していただきたいと、この度、立て札を設置することにいたしました。聖天堂のお堂前に設置しているものと同じような形状で、現在京都の仏具店に発注しております。今年中には設置完了予定です。その説明書きの文言を、先行して左記に掲載いたしました。どうぞ一読ください。

### 永代供養堂 還源

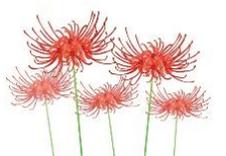
弘法大師空海は、ご自身の求道の中で、「本源に還る」ことを意味する「還源」という言葉を残されています。これは全

ての人が自身の中に宿している仏心が、澄んだ悟りの心境に赴こうとする修行

のありようを表現した一語です。「本源的な迷いのない、目覚め澄みきった世界に還っていく」悟りの姿。

これを私たちが今生の命を閉じた後、大きな仏の世界、大自然に溶け還って行く様と重ね合わせ、それをお堂全体で表現しました。私たち人間も、本来、大自然という大きな命の一部であります。

外観は、大自然の何一つ欠けた物がない完全な姿を表す円形で、明かり取りの窓はすべてステンドグラスになっています。正面には大自然そのものである大日如来、四方には春夏秋冬の動植物に囲まれ、南北に陰陽を表現した作品が配置されています。日本は四季の循環の中で様々な自然の恵みを得ながら、豊かな文化を紡いできました。また全ての世は、一見すると相反する物事が一



体となり、調和することで成り立っています。男性と女性、太陽と月、昼と夜、動と静、熱と寒。そしてお堂中央に納骨穴があり、大地にそのまま遺骨を納め、大きな世界にお返しします。

死は誰にでも分け隔てなく、いずれ必ずやってくるものです。命あるからこそその

死。海禅寺では、還源という大きな安心の中で、永代に渡り供養を続けて参ります。

合掌

また立て札には記載しませんが、四季のステンドグラスは、大きなものではありませんが、次のようなデザインが施されています。

【四季のステンドグラス】

- ・春 桜曼茶羅、蝶、蜂、鶯、蛙
- ・夏 蓮曼茶羅、蝉、燕、金魚、蝸牛
- ・秋 菊曼茶羅、赤蜻蛉、バッタ、百舌鳥、栗鼠
- ・冬 茶曼茶羅、鴨、鷺、兎、カモシカ

境内墓地墓参の際には、ぜひご注目ください。ご希望の方はあらかじめご連絡いただけましたら、お堂内をご案内いたします。どうぞお申し出ください。



(秋のステンドグラス)

第38回 人形供養会



毎年11月の勤労感謝の日に行っている人形供養会を今年も勤修いたします。回を重ねること38年目となります。3年前からお参りくださる皆さんの健康への影響と自然環境に配慮し、人形をお焚き上げする供養方法を取りやめました。今は集まったお人形さんをすべてお飾りした上で、新しく修験道の秘法・柴燈護摩供によって懇ろにお人形の供養をお勤めしています。

柴燈護摩供では、お人形のご供養と合わせて檀信徒の皆さまの、家内安全と心願成就も御祈念いたします。上田近隣では目にする機会の少ない法要です。皆様ぜひご参拝ください。供養の依頼をする場合を除いて、特別なご志納は不要です。どうぞお越しいただき、お人形に託す思いや、物を大切にすることについて考える契機に、そしてご自身の願いを祈り、手を合わせる一時としていただけましたら幸いです。

【人形供養会 詳細】

日程… 令和4年11月23日(水・祝日)  
時間… 「受付」午前9時半〜  
「雅楽奉納演奏」午前10時40分〜  
「人形供養法要」午前11時〜

人形供養のお申込みについて



供養料に決まりはありませんが、お人形一体あたり1000円を目安にお願いしております。数が多い場合は、ご無理のない範囲でご志納下さい。なお、現在とは特別なご事情を除いて、ぬいぐるみの供養はお受けしていません。

また毎年2月3日の節分以降、供養の事前受付をしております。それ以後は基本的に曜日を問わず受付可能です。お預かりしたお人形は、寺で供養会当日まで大切に保管し、その年の人形供養会で供養させていただきます。



参道土塀の増設工事もお陰様で最終段階に入っております。予定では今年の人形供養の前には全面完成予定です。各職人さん方には、仕事とはいえ、夏の暑さの中を連日作業していただき、大変に有り難いことでした。寺へお参りの際は、参道の様子をぜひご覧ください。

お隣の芙蓉園では、季節性の感染症が流行しています。除菌が徹底された世の中を生きる小さなお子様達は、抵抗力が育つ機会が乏しくなっているのでしょうか。様々な感染症が横行しております。RSウイルスにヒトメタニューモウイルス、一昔前は「夏風邪」として見なされていたであろう症状が細分化されることが、対応が手厚くなった反面、名前がつくことで恐怖感が増した気もします。

戦国武将、真田氏とゆかりのある海禅寺は、コロナ禍以前、頻繁ではありませんが、観光ツアーの方々がご参拝でおいでになることがありました。そうした団体のお参りが途絶えて久しい状況でしたが、9月に入ってすぐに、松代から歴史に関心のある団体の方達の来訪がありました。久しぶりに20名を越える大勢の方達が境内各所で手を合わせ、笑顔でお帰りになりました。まだまだ感染症の不安は完全には拭えませんが、コロナ禍の終わりが見えてきたような気が致しました。

秋から弘法大師ご誕生1250年記念事業としての、ご生誕記念慶讃法要が総本山智積院で勤修されます。期間中、海禅寺からも住職が法要に出いたします。本山行事の様子等、次号以降にレポートいたします。